

禁断の7日間

義妹を 孕ませた 7日間

EPISODE 1

処女喪失の夜

義妹を孕ませた7日間

(1) 処女喪失の夜

※本作品に登場する人物は全て18歳以上です

【体験版】

深夜1時27分。

時計の針が静かに進む中、俺の部屋のドアがゆっくりと開いた。

かすかな音に気づいて、俺は息を潜めた。

最近、毎晩のように訪れる義妹・美玲の気配。

5年前に母が再婚してできた妹で、血は繋がっていない。

18になったばかりの美玲は、最近やたらと俺の視線を意識するようになっていた。

風呂上がりに薄いタオル一枚で廊下を歩いたり、俺が寝ている横で「にいちゃんの匂い、好き……」と呟いたり。

今夜も、きっと来ると思っていた。

「にいちゃん……起きてる？」

甘く震える声。

美玲が部屋に入ってきて、ドアをそっと閉める。

薄暗いランプの光が彼女の白いキャミソールを透かして、柔らかな曲線を浮かび上がらせる。

胸の膨らみがぼっちりと突起を立て、下はショートパンツ一枚。

むっちりした太ももが歩くたびに揺れて、俺の視線を釘付けにする。

シャンプーの甘い匂いと、それに混じる微かな甘酸っぱい女の子の匂い。

興奮したとき特有の、あの匂いだ。

「美玲……こんな時間に、何だよ」

俺は声を低く抑えて言った。

心臓がドキドキと鳴っている。

美玲はベッドに近づき、俺の横に腰を下ろす。

細い指がTシャツの裾に触れ、ゆっくりと捲り上げる。

冷たく柔らかい感触に、俺の体がびくんと反応する。

「にいちゃん……私、変だよ。最近、にいちゃんのことばかり考えて……ここが、熱くなっちゃうの」

美玲は自分の股間をそっと押さえる。

顔が赤くなり、目を潤ませている。

可愛い。

義妹なのに、こんなにエロく可愛いなんて、反則だ。

「美玲、そんなこと……俺たち兄妹だろ」

「血は繋がってないでしょ？ ……それに、にいちゃんも、私のこと……見てたよね。風呂上がりするときとか」

ぐうの音も出ない。

確かに、見ていた。

美玲の濡れた髪から滴る水滴が首筋を伝い、鎖骨に溜まるのを、股間が熱くなった。

美玲は俺の沈黙を肯定と受け取ったのか、ベッドに這うようにして俺の上に跨がってきた。

キャミソールの裾が捲れ上がり、平らなお腹と可愛いおへそが覗く。

Cカップの乳房が布地を押し上げ、乳首が硬く浮き出ている。

「にいちゃんのここ……もう、こんなに硬くなってる」

小さな手がパンツの上から股間を撫でる。

びくんと跳ねた瞬間、美玲の目が輝く。

— 体験版はここまで —

続きは製品版でお楽しみください

本編：約16,000字収録